

## 京都市立翔鸞幼稚園（京都府）

日々の実践を「科学する心」の視点でまとめていくとき、職員間の様々な捉えや読み取りから園独自の共通言語が生まれ、試行錯誤の末に、着地点が見つかることがあります。「ときめき・ひらめき」という園独自の視点を導き出し、シートに可視化して、教師の援助や資質能力の育ちを探ることで、遊びの深まりが読み取れ、「科学する心」の理解や共通認識が深まります。

## 園独自のときめき・ひらめきシートで育ちや援助を捉える

『ときめき・ひらめきシート』を作成し、子ども達の夢中になって遊ぶ姿から、何にときめきを感じ、どんなことをひらめいていくのか、そして、“ときめきやひらめき”を生む教師の援助や環境構成、遊びが深まっていくための、今後の保育につながる教師の援助や環境構成について考えていきたい。また、そのシートをもとに、『科学する心の図』を具体的に示し、ときめいたりひらめいたりしながら、様々な思いを巡らせていく中で、どのような「資質・能力」が育まれているのかをエピソードを通して丁寧に探っていく。

32ページからの『科学する心の図』と『ときめき・ひらめきシート』は、園庭の鉢でヤゴとの再会を果たし、失敗を繰り返しながらも、トンボになって欲しいと生き物を愛おしく感じ、育てていく中で育まれる5歳児の姿を明示したものの。



## そら組のヤゴ飼育物語～再開から旅立ちまで～

生き物を愛おしく感じながら育てていく中で育まれる「科学する心」。

昨年度と同じ場所で見つけたヤゴの幼虫。ヤゴとの再会にときめき、好奇心や探究心、思いやりをもちながらヤゴと共に過ごす中で、初めは2人のものであったヤゴへのときめきが全体へ、さらに、保護者や異年齢の友達へと広がります。

ヤゴが大きくなり、羽化直前まで育ったとしても、羽化がうまくいかないという現実。

「何としてもトンボになってほしい」という目的と次への見通しが、試行錯誤や工夫を生み出した。やっとの思いで羽化が成功した時には、自分の気持ちと向き合い、葛藤し、折り合い、相手の気持ちを受容する姿が見られました。このような経験を重ねる中で、子どもの中に、ヤゴに対してのときめきや思いやりよりも、もっと深い、ヤゴを愛おしく思う気持ちが芽生えていったのではないかな。その気持ちが、多くの子どもに伝われば伝わるほど、ときめきも大きくなり、ひらめきが生まれ、さらに友達のひらめきと照らし合わせて新たなひらめきを生んだりする姿も増えていました。



### もうすぐ羽化？ 6月3日

ケースをのぞきこみ、「これが10歳くらいかなあ。これ11歳」「もう脱皮できそうやで」と言う。

4匹のうちの1匹の体の色が濃くなっていること、羽の形が見えるようになってきていることに気付いたようだ。Y児が週末に連れて帰ることになった。



### トンボになったけれど… 6月6日

Y児が連れ帰ったヤゴは羽化をしたが死んでしまった。

Y児「ヤゴの殻が抜けてトンボになって石に止まっててん。おしりがずっと水の中に入ってたん。水なくならせて土入れたんだけどおしりが濡れちゃって」

R児「羽が濡れたらあかんねんなあ」

O児「入れるのは葉っぱじゃなくて木がいいんちゃう？葉っぱだと柔らかくて沈んじゃう」

クラスでの話し合いは続き「とにかく棒は立てた方がいい」となった。



### 研究所でトンボが生まれた 6月22日

他のヤゴも水面から体を出すようになり、羽化を始めた。その中で、溺れたはずのトンボが動く。

Y児「生きてる！」。

Y児は、トンボを大きな石の上に置いた。

Y児の指をトンボが掴もうとする。「掴めるものがあるのかな」と保育者が言うと、R児が割りばしを持ってきた。H児は、水切りネットを広げてトンボの下に敷いた。Y児がトンボを触りながら、「指食べた！おなか減ってるんや」と言い、イトミミズをピンセットでつまみ、口元に近づける。「にょいかいでる」「めっちゃおいしそうに食べてる！」と皆で見た。









**ときめき・ひらめきシート**  
**5歳児 そら組のヤゴ飼育物語 ～再会から旅立ちまで～**

**夢中になって遊ぶ姿**

- ・毎日ヤゴを育て、うまく育たない時に悲しがりたり悔しがったりする姿
- ・生まれてくるトンボのためにどうしたらいいかを必死で考える姿
- ・ヤゴを研究所で育てることだけでなく、そこから色々な遊びを広げていく姿
- ・ヤゴと一緒に遊ぶ姿、ヤゴのために一生懸命考えていく姿
- ・ヤゴを大切に世話をし、よく観察したり調べたりする姿
- ・トンボが羽化することができ、「やっと生まれた！」と喜ぶ姿

**【ときめく姿】**

**♡教師の援助と☆環境構成**

- ・ヤゴとの再会を嬉しく思う姿
- ・研究所で失敗や成功を繰り返しながらヤゴを大切に育てる姿
- ・もうすぐトンボになるかもしれないと感じる姿
- ・トンボが生まれたら...と想像する姿
- ・ヤゴの羽化が成功した様子を見て、異年齢の友達に伝える姿

- ♡一人一人のときめきを受け止め、問いかける援助をする
- ♡「どうしてもトンボになってほしい」という思いを子どもと一緒にもち
- ♡教師もヤゴについて調べる

**【ひらめく姿】**

**♡教師の援助と☆環境構成**

- ・ヤゴの育て方と羽化をするためにどんな家にしたらいいかを考える姿
- ・自慢のヤゴを皆に見せるために「研究水族館」を開設する姿
- ・上手く羽化できなかったトンボに対して、「どうしてあげたらいいのだろう」と考える姿
- ・そこから生まれた「自動で水が流れてくる川を再現したヤゴの家」
- ・羽化したトンボに対してどうしてあげたらいいかを一生懸命考える姿

- ♡子ども達のしたいことを認め、共感し、実現できるようにそつと関わっていく
- ♡保護者や異年齢の友達を巻きこみながら、自分達の育てているヤゴを共に大切にもらっている雰囲気づくりをする
- ♡「どうしたら助けられる？」等とひらめきをうむような問いかけをする
- ☆タライ、オアシスなど、子ども達がひらめいたことを実現できる材料やほしいものを予想しながら用意しておく

**【今後の保育につながる教師の♡援助と☆環境構成とは・・・】**

♡クラス全体の仲間として大切に育てたり、そこからイメージを広げて遊びを広げたりする経験や、色々な人の考えに触れる楽しさを感じる経験ができた。この経験を他の遊びにも生かしていく

♡子ども達のときめきやひらめきをキャッチして、さらにときめき、ひらめきが続くような関わりや問いかけをする

♡生き物にとっての良い環境を一生懸命考えていた姿が多くあった。生き物を大切に思う気持ちは、人に対する思いにもつながるのではないのか。自分以外の人や生き物を大切に思う気持ちにつながるように関わっていく

♡研究所での遊びが今後どのように変化していくか分からないが、子ども達の自慢の場所である、研究所の環境を継続して残しておき、子ども達の様子を見ながら環境の再構成をしていく

**先生に聞いてみました**

園内で「ときめき・ひらめきシート（協議用のシート）」を作成しました。

そのシートを使って協議をすると子ども達がときめいたりひらめいたりして遊ぶと、色々な具体的な資質・能力を育むということが分かりました。そこで「科学する心の図」を作成し、各学年の事例を基に「科学する心の図」を作成すると、5歳児は、ときめきとひらめきが連鎖し、具体的な資質・能力が多く育まれ、5歳児ならではの「科学する心の図」になるということが分かりました。

そして園独自の協議用シートや図は、試作のものを協議で使い、先生達に感想を聞きながら改善していきます。

「書きにくいです」という感想が出ると、再び改善し、皆が納得するものにしていきます。

そのシートや図を基に協議している時間がたまに楽しく、先生達の熱い思いが出し合える場となっています。時には協議中に『ソニーの神』が舞い降りてきて盛り上がる時もあります。まさに先生達の“ときめき”と“ひらめき”が溢れる瞬間なのです。

その後、ヤゴ研究所の遊びは、ヤゴを発見し、試行錯誤しながら羽化させた経験を5歳児が図鑑にしました。卒園前に4歳児に図鑑と共に研究所の引継を行い、今年度も新たな研究所が設立されています。

**↓ 論文全文はこちら**



『ときめき・ひらめきを生む  
 保育をめざして！』

～科学する心を育てる教師の援助や  
 環境構成について考える～

